

平成 21 年度酪農教育ファーム活動 事業報告（案）

平成 22 年 3 月 17 日
 社団法人 中央酪農会議
 酪農教育ファーム推進委員会

1. 酪農教育ファーム活動の現状

(1) 認証牧場及びファシリテーターの数

平成 21 年度当初の酪農教育ファーム認証牧場（以下、「認証牧場」という。）は全国で 257 牧場であったが、酪農教育ファーム活動への関心や期待の高まり及び 20 年度からの認証制度の変更により、平成 21 年度末の認証牧場は、34 牧場増え全国で 291 牧場となる見込みである。

また、認証された酪農教育ファームファシリテーター（以下、「ファシリテーター」という。）の数は、21 年度当初の 407 名から 100 名増え全国で 507 名となる見込みである。

これを地域別にみると、下表のとおりである。

酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーターの推移

地域	認証牧場										ファシリテーター	
	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	20年度	21年度
北海道	27	30	43	45	49	51	50	53	50	51	70	86
東北	17	17	20	20	20	20	34	44	38	42	60	67
関東	25	29	37	38	40	43	43	45	49	60	84	119
北陸	4	6	6	6	7	7	7	7	14	16	38	39
東海	12	15	17	17	19	29	29	42	47	49	69	75
近畿	4	7	10	10	10	10	11	12	12	13	16	25
中国	7	9	10	11	12	12	14	15	14	17	19	24
四国	2	2	2	2	2	3	4	6	7	7	12	12
九州	17	19	21	22	21	22	23	23	23	33	35	56
沖縄	1	1	1	3	3	3	2	2	3	3	4	4
合計	116	135	167	174	183	200	217	249	257	291	407	507

注：21年度については、年度末の見込み

(2) 酪農教育ファーム活動の参加者と団体の数

認証牧場に対する受け入れ実態調査によると、牧場での酪農体験学習（何らかの体験学習メニューに実際に参加した人数で、単なる牧場見学を除く）に参加した児童・生徒などや学校などの団体の数は以下の通りである。

酪農教育ファーム活動のうち、牧場での酪農体験学習に参加する人々の数は、年々増加傾向がみられ、平成19年度は全国で69万人、20年度は71万人であった。さらに、21年度上期においては、全国で66万人となっており、前年同期比140%となっている。なお、件数については、前年比502%となっているが、これについては、観光型の牧場での本格的な体験学習メニューの採用により、「個人・グループ」の実績が大幅に増加したことに影響を受けているとみられる。

また、幼稚園や学校などの教育機関による教育的な取り組みとして酪農体験学習に参加した学校・団体数が5,080（前年同期比22%増）、幼児・児童・学生などが約22.6万人（前年同期比4%増）で全体の34%となっている。その構成比を人数で見ると、幼稚園等の幼児が全体の17%、小学校の児童が32%、中学校の生徒が20%で、高校生以上の学生が8%、特別支援学校が2%、子ども会等が22%（多くが小学校の児童）であった。

【区別】

年度 区分	21年度				20年度		19年度		
	件数(件)	前年比	体験者数(人)	前年比	件数(件)	体験者数(人)	件数(件)	体験者数(人)	
上期	幼稚園・保育園	537	120.1%	38,162	106.5%	447	35,834	361	24,684
	小学校	1,308	123.2%	72,650	103.3%	1,062	70,336	1,033	62,490
	中学校	795	117.4%	44,312	132.1%	677	33,533	730	46,660
	高等学校	307	131.8%	12,401	108.0%	233	11,482	256	16,874
	大学・専門学校	341	108.3%	6,091	98.5%	315	6,183	231	4,759
	特別支援学校	193	131.3%	3,968	145.1%	147	2,735	164	4,226
	子ども会などの団体	1,599	123.9%	48,698	84.6%	1,291	57,552	1,019	37,466
	学校などの団体	5,080	121.8%	226,282	104.0%	4,172	217,655	3,794	197,159
	個人・グループ	93,039	605.6%	435,558	170.4%	15,364	255,565	26,173	268,234
	その他	24	#DIV/0!	789	#DIV/0!	0	0	0	0
	全体合計	98,143	502.4%	662,629	140.0%	19,536	473,220	29,967	465,393
通期	幼稚園・保育園					836	56,161	615	37,038
	小学校					2,054	123,373	1,589	93,322
	中学校					888	39,875	868	49,907
	高等学校					386	17,002	350	20,730
	大学・専門学校					443	8,404	346	12,201
	特別支援学校					231	4,627	249	6,466
	子ども会などの団体					1,762	71,182	1,524	54,103
	学校などの団体					6,600	320,624	5,541	273,767
	個人・グループ					22,105	384,944	30,589	416,940
	その他					0	0	0	0
	全体合計					28,705	705,568	36,130	690,707

注1：上記は報告があった数字。平成21年度上期の調査回収率は95%。20年度と19年度については、いずれも回収率約90%。
 注2：21年度上期については、観光型の牧場の「個人・グループ」の実績が大幅に増加したため、前年比が大きくなっている。当該牧場の体験プログラムに、哺乳体験などの本格的な体験学習メニューが組み込まれることになったため。
 注3：20年度以降の調査では、牧場で酪農体験学習を実施した人数の報告となっているため、20年度は観光施設を有する認証牧場において個人・グループの実績が減少した。

なお、同じく認証牧場に対する調査によると、平成21年度上期に学校への出前授業を実施した認証牧場は全国で28牧場あり、半年間で178件の出前授業を実施している。そのうち、継続的に出前授業を実施しているのは26件となっており、多くは1回のみ体験となっている。また、保育園・幼稚園が65件、小学校が33件と、2区分で全体の約55%を占めている。

2. 事業の実施状況

酪農教育ファーム活動の円滑な推進と発展的な展開を図るため、平成21年度においては、国の支援も受け、事業計画に基づいて次のような事業を実施した。なお、実績数値については、3月17日現在の見込みである。

(1) 酪農教育ファーム認証申請及び認証研修会、現地審査・審査委員会

認証募集については、指定団体に案内するとともに、業界誌等を通じて広く酪農家・関係者に告知し(募集期間は9月16日～12月18日)、ファシリテーター及び牧場の認証申請に基づき、1月8日に認証審査委員会を開催した。また、認証申請のあった牧場を対象に、地域推進委員会・指定団体を中心に現地審査を実施した。

認証研修会については、東京(1月21日～22日、52名)、大阪(2月2日～3日、32名)、帯広(2月16日～17日、16名)の3か所で開催し、計100名の受講となった。

(2) 酪農教育ファーム活動の教育的な効果に関する社会的認知の促進

酪農教育ファーム活動の学習目標である「食といのちの学び」が、酪農体験学習活動を通じてどの程度実現しているのかについて、体験のメニューや教育的支援との関係で検証するとともに、学習目標の高い到達度を実現するための学びのメカニズムを事例のなかから抽出し、モデル的なカリキュラム(体験メニューと教育的支援の在り方)の基本的な考え方を整理することを目的として、調査研究をおこなった。【参考1】

(3) 酪農教育ファーム活動の経済的自立に関する調査研究の実施

酪農経営の1部門としての酪農教育ファーム活動の経済的自立(市場確立)の条件を明らかにし、その調査結果を普及するとともに、認証牧場への指導に活用し、また、酪農経営の多角化にむけた経営的支援策のあり方を整理することを目的として、調査研究をおこなった。【参考2】

(4) モデル牧場指定と地域活動、情報収集拠点としての活用

先進的な活動を行う認証牧場をモデル牧場として指定し(全国で27牧場)、地域活動、事例研究、情報収集拠点として活用。事業の目的を徹底させるために、当該牧場を対象に事業説明会を8月31日に開催した。

モデル牧場を活用した体験学習活動として、先生のための酪農体験を8件、牧場での酪農体験学習を55件、出前授業を6件、それぞれ実施し、全国で約4,000名がモデル牧場を活用した酪農体験学習に参加した。

なお、モデル牧場を活用した酪農体験学習の優良事例については、優良実践事例集やホームページ等で公表することとしている。

平成21年度モデル牧場

地域	牧場名	住所
北海道	リバティヒル広瀬牧場	北海道帯広市西23条南6丁目13番地
	むらかみ牧場	北海道恵庭市戸磯156番地
	小川牧場	北海道枝幸郡浜頓別町豊寒別
	レークランドファーム久保牧場	北海道紋別郡湧別町芭露126
東北	くずまき高原牧場	岩手県岩手郡葛巻町葛巻40-57-125
	南蔵王不忘高原牧場	宮城県白石市福岡八宮字不忘山7-1
	山川牧場	山形県上山市永野2191-23
	郡山石籬ふれあい牧場	福島県郡山市熱海町石籬字萩岡2番2
関東	ABITANIAジャージーファーム	青森県西津軽郡鱒ヶ沢町建石町大曲225-2
	体験館"TRY"TRY"TRY"	栃木県那須塩原市戸田74-2
	関口牧場	神奈川県横須賀市長坂4-13-55
	小泉牧場	東京都練馬区大泉学園町2-7-16
	吉田牧場	埼玉県秩父郡小鹿野町飯田1744-1
北陸	松下牧場	静岡県富士宮市根原221
	新川育成牧場	富山県黒部市宇奈月町柝屋字広谷4
東海	清水牧場	愛知県刈谷市小垣江町明門89-1
	N. D. ファーム	愛知県豊橋市野依町字東山8-5
	大井牧場	岐阜県羽島市桑原町西小藪2-333
	渡邊牧場	三重県鈴鹿市追分町2208-13
近畿	おおさか府民牧場	大阪府豊能郡能勢町平野110
	西山牧場	兵庫県三木市吉川町豊岡427
中国	やまね牧場	広島県安芸高田市高宮町原田1378
四国	(有)大山牧場	香川県さぬき市大川町富田西191
	岡崎牧場	高知県高知市円行寺129
九州	(有)ナカシマファーム	佐賀県嬉野市塩田町真崎1488
	モーモーファーム竹原牧場	熊本県阿蘇市西町荷内原996
	山の牧場	鹿児島県出水市上大川内2553

(5) 教科横断的学習教材及び地域の特色を活かした教材の開発

酪農教育ファーム活動の多様な教育的要素を学校現場に提案することを目的として、「酪農」や「牛乳」を学習の中心におき、そこからさまざまな教科への発展を考える教科横断的な学習教材を開発した。対象は小学校高学年(5~6年生)の児童とし、対象教科は10教科(国語・算数・理科・社会科・家庭科・道徳・図画工作・英語活動・特別活動・総合的な学習)とした。【参考3】

また、地域単位でも、地域の特色を活かした牧場MAP(東北、関東、北陸)や酪農体験学習活動のための啓発教材(近畿:心音器、中国:心音器(20年度制作分の性能強化)、四国:体験学習セット、九州:牧場での酪農体験における事前・事後学習用教材)が開発されている。

(6) 推進委員会等の会議開催

酪農教育ファーム活動を円滑に推進するため、全国及び地域で推進委員会をはじめとした会議を下記のとおり開催した。

平成21年度 酪農教育ファーム関連会議の開催状況(全国)

日時	場所	会議名称
5/15	東京	酪農教育ファーム地域推進委員会委員長合同会議
6/21	東京	平成21年度第1回酪農教育ファーム専門委員会
10/26	東京	平成21年度第1回酪農教育ファーム推進委員会
3/4	東京	平成21年度第2回酪農教育ファーム専門委員会
3/17	東京	平成21年度第2回酪農教育ファーム推進委員会

平成21年度 酪農教育ファーム推進委員会の開催状況(地域) ※予定含む

地域		日時	地域		日時
北海道	北海道①	6/17	北陸	北陸地域①	6/29
	北海道②	10/8		北陸地域②	3/19
	北海道③	2/26		新潟県①	7/27
東北	東北地域①	6/1	東海	東海地域①	7/9
	東北地域②	12/9		東海地域②	1/21
	東北地域③	3月		愛知県	3/9
	山形県	10/14		岐阜県	3/15
	福島県①	7/31		三重県	3/12
	福島県②	10/7	近畿	近畿地域①	6/18
	福島県③	12/15		近畿地域②	9/15
	福島県④	3月		近畿地域③	2/23
関東	関東地域①	9/19	四国	四国地域	8/11
	関東地域②	3/27	九州	九州地域	6/20
	埼玉県	6/1			
	神奈川県①	7/24			
	神奈川県②	11/27			
	神奈川県③	1/14			
	静岡県①	8/28			
	静岡県②	3/23			

※21年度に新たに組織されたのは、福島県、新潟県、三重県。

(7) 酪農家と教師の「出会いの場」作りのための研修会や情報交換会の開催

地域推進委員会が主体になって、認証牧場・ファシリテーターと教育関係者との「出会いの場」としての、共同の研修会や研究会、情報交換会を下記のとおり開催した。

平成21年度「出会いの場」研修会、研究会、情報交換会

地域	実施日	実施場所	対象	内容	参加人数
北海道	7/27	広瀬牧場(帯広市)	教育関係者、酪農家	教員対象の研修会	53
	8/18	むらかみ牧場(恵庭市)	栄養教諭論を受講する大学生、酪農家	牧場で学ぼう!	46
	8/19	むらかみ牧場(恵庭市)	栄養教諭論を受講する大学生、酪農家	牧場で学ぼう!	31
東北地域	10/10~11	青森県むつ市	教育関係者、酪農家	酪農体験活動研修会(青森)	10
	1/28	ルピナスファーム(岩手県)	教育関係者、酪農家	酪農体験活動研修会(岩手)	20
北陸地域	7/27	新潟県新潟市	教育関係者、酪農家	酪農体験見学会	14
	8/21	フジタファーム(新潟県)	教育関係者、酪農家	酪農体験活動研修会	15
東海地域	10/10	愛知牧場・アイリス愛知	栄養士・栄養教諭	酪農体験活動研修会	32
近畿地域	8/5	西山牧場(兵庫県)	教育関係者、酪農家	教育関係者「酪農体験会」の実施	22
四国地域	2/27	榎大山牧場(香川県)	教員	教員対象酪農体験会	35
	2/28	板東牧場(徳島県)	教員	教員対象酪農体験会	6
九州地域	7/25	福岡県福岡市	教育者・認証牧場等	酪農教育ファーム活動についての学習会	43

327

※上記以外にも、出前授業実施校の先生のための酪農体験研修会(関東地域)や、各地域の教員向け研修会等で情報交換活動をおこなった。

(8) ファシリテーターに対するスキルアップ研修会

ファシリテーターが、酪農教育ファーム活動の現状把握と確認をおこなうとともに、酪農体験学習活動における教育的効果の発現の仕方などについて学び、酪農教育ファーム活動の質をより一層高めることを目的として、東京(9月19日、39名)、札幌(10月13日、20名)、博多(11月2日、17名)の3か所でスキルアップ研修会を開催し、計76名の受講があった。なお、ファシリテーターの認証要件として、3年に1回のスキルアップ研修会の受講が義務付けられていることから、ファシリテーターが全員受講できるよう、ショートプログラム(11時~15時)の研修会を開催した。

(9) 教育関係者ネットワークへの支援

酪農体験を通して「食」「いのち」「勤労」について学び、思考力・判断力・表現力や言語力など、体験で育まれる教育的効果について、基調講演、実践発表、グループワークなどから学校教育関係者に広く知ってもらい、学校教育における酪農体験学習活動の裾野を広げていくための教育関係者の新たなネットワークづくりを目的として、教育関係者対象セミナーを博多(8月22日、71名)、札幌(12月5日、66名)の2箇所で開催し、合計137名の参加があった。

(10) 「感動通信」の発行

教育関係者やファシリテーター等に対して、酪農教育ファーム活動の教育効果や教育的な視点、実際の活動の優れた事例、教育現場の動向などの酪農教育ファーム活動に係る幅広い情報を、「感動通信」を年4回(各5千部)発行して、情報提供をおこなった。

(11) 食育推進全国大会への出展

酪農教育ファーム活動の普及を図るため、『酪農家と学ぶ牧場の「食」と「いのち」』と題して、第4回食育推進全国大会(6月13日~14日、島根県松江市)へ出展した。牧場に対する好奇心、期待感を感じさせ、実際の酪農体験へとつなげられるよう、牧場をイメージさせるブース造作を行い、カッターチーズ作り体験、バター作り体験を通じて身近な食文化に触れ、乳製品の優れた栄養価を再認識してもらう機会を設けた。また、ブース内をまわって正解を見つけるクイズラリーを実施し、解答を探す過程でブース内にいる酪農家との交流を図るようにし、酪農教育ファーム活動の普及を図った。大会当日2日間の来場者数は約1万3千人。

(12) 安全衛生管理強化対策

酪農教育ファーム活動を安全かつ円滑に推進するため、認証牧場に対して、安全衛生対策消耗品(手洗い石鹸、手・指用消毒液、ペーパータオル、ブーツカバー)の配付と併せて、安全衛生対策の周知徹底指導を7月に実施した。また、地域単位で腸管出血性大腸菌0157保菌検査を実施した。

(1 3) 認証牧場に対する現地調査・指導

認証牧場における酪農体験学習のための安全な活動環境を整備するとともに、活動現場の多様な課題などの把握、個別課題への必要な支援を行うため、地域推進委員会が主体となって全国で約 30 牧場に対して現地調査・指導をおこなった。

(1 4) 地域交流牧場全国連絡会等と連携した認証牧場の拡大対策

地域交流牧場全国連絡会等の協力を得て、全国及び地域単位で、酪農教育ファーム認証制度等に関する説明会（ネットワーク構築のための情報交換会議）を計 9 回開催し、認証制度の普及推進に努めた。

3 . 事業の成果と課題

【成果】

(1) 新たな認証制度の定着と普及

平成 21 年度は、酪農教育ファームの新たな認証制度（牧場の認証と人（ファシリテーター）の認証、という 2 つの認証）に移行して 2 年目であったが、新規認証牧場が 34 牧場、新規ファシリテーターが 100 名となり、認証取得希望者は増加傾向にある。また、21 年度の新規ファシリテーターの特性として、酪農教育ファーム活動を通して酪農経営の発展を目指す若年齢の後継者や、女性の希望者が多く散見される。さらに、体験交流活動の基礎を研修で学び、認証を取得して活動を実施したいという観光型牧場の従業員の参加についても増加傾向にあり、認証希望者の属性が多岐にわたることから、新たな認証制度が着実に定着・普及しているものとみられる。この背景として、21 年度に酪農専門誌等で酪農教育ファーム認証制度などの情報提供をおこなったことから、酪農生産者・生産団体への認証制度等の周知が進んだと考えられる。

(2) 研究体制の充実と新たな知見

21 年度に実施した各種調査研究については、興味深い結果がみられる。

酪農教育ファームの教育効果に関する調査研究では、来年度に計画するモデルカリキュラムの開発に向けて、酪農教育ファーム活動の教育効果の検証方法について確立することができた。併せて、活動の教育効果について研究する全国的な教育関係者のネットワークが組織されたことにより、全国でのさらなる活動の普及が期待される。

また、酪農教育ファーム活動の経済的自立に関する調査研究については、認証牧場への適切な活動支援などの条件整備をおこなうにあたって、注目すべき結果が出ている。現在の認証牧場のうち、約 7 割が酪農教育ファーム活動を酪農経営のなかに位置づけて自立的に発展させたいと考えている一方で、約 3 割はボランティアとして志向していることが判明した。このことから、今後は、2 パターンの志向性をもつ認証牧場に対して、各々の活動支援をおこなう必要があることが明らかになった。なお、酪農教育ファーム推進委員会の組織運営と併せて、交流活動をおこなう酪農家の全国的な

ネットワーク組織である地域交流牧場全国連絡会が、酪農教育ファーム活動の推進力として機能していることが再認識できた。

(3) 研修・教材の充実や教育関係者のネットワーク構築への支援

「牧場」や「酪農」を中心におき、そこから様々な教科に発展させる「教科横断的教材」を開発し、小学校高学年の多様な科目と結びつけて、学校で酪農について学べる教材を開発することができた。開発に際しては、複数の教育関係者とファシリテーターの協力を得て、今後、酪農学習を学校現場に普及する際に大きな力となるような教材開発に係るネットワークが構築された。

また、ファシリテーターの資質向上を図るスキルアップ研修会については、参加者がより深い学びを得るプログラムについて近年検討を重ねてきたが、21年度のプログラムについては総じて参加者の評価も高く、今まで試行錯誤を重ねた成果といえる。

一方で、酪農教育ファーム活動の教育業界への面的拡大を目指すため、日本教育新聞で酪農教育ファーム活動の実践を紹介し、昨年度から継続した教育関係者対象セミナーを全国で2回（博多、札幌）開催し、併せて137名の参加者に酪農教育ファーム活動を広報することができた。セミナー後、実際に酪農体験学習を開始された例も報告されている。

(4) 地域推進体制の強化

地域段階においては、地域の推進委員会が主体となり、教育関係者と認証牧場・ファシリテーターの「出会いの場」を設定し、地域段階における活動の実践的なネットワーク組織が構築されつつある。また、平成21年度に認証牧場・ファシリテーターの大幅な拡大がみられたのは、中央段階からの酪農専門誌での情報発信と併せて、より生産現場に密着したブロック単位、都府県単位の推進委員会の功績が大きい。さらに、地域交流牧場全国連絡会と連携し、「ネットワーク構築のための情報交換会議」を開催するなど、未認証者に対して認証者から発信する場を設け、認証牧場・ファシリテーターの掘り起こしをおこなった。

ブロック毎に推進委員会の設立を推進し始めて4年が経過したが、21年度については、初めて「先生のための酪農体験会」を開催したり、「地域単位でのファシリテーターの資質向上研修会」「認証未取得者のための普及啓発研修会」が企画されたりと、以前にも増して積極的な事業展開が行われたブロックが多かった。なお、より地域活動を推進する組織として、都府県単位の推進委員会が組織され始め、酪農教育ファーム活動は全国的に確実な広まりをみせている。

【課題】

(1) モデル事業の活用方法

モデル事業については3ヵ年継続してきたが、モデル的な事例を収集して、広く普及するという狙いはある程度達成されたものの、地域によっては年度当初の計画通り

に事業が推進できず、結果的に事業が実施できなかったといったケースもみられた。また、モデル事業の活用方法が未確立であったため、全体の事業の発展に貢献させるために十分に活用できなかったことは課題である。

(2) 教育関係者への広報活動

教育関係者への広報宣伝活動については、日本教育新聞への記事掲載や教育セミナーを通じて一定の効果は見られたが、体験学習の実践者となる現場の教諭等への更なる普及周知を図るためには、より効果的な広報宣伝媒体等を模索する必要がある。

(3) 活動が停滞している地域の存在

21 年度については、活動が活発化した地域が目立った一方で、推進体制が不十分なため、活動が停滞している地域もみられた。

また、地域によっては、未だ酪農教育ファーム活動について普及不足がみられるので、今後も継続的かつ積極的に情報を発信し、普及啓発活動を推進していく必要がある。

(以上)

【参考】酪農教育ファーム 各種委員名簿

平成21年度酪農教育ファーム推進委員名簿

※順不同、敬称略

氏名	所属・役職等
羽豆 成二	帝京短期大学生生活科学科 前教授
角屋 重樹	広島大学大学院教育学研究科 教授
石井 雅幸	大妻女子大学家政学部児童課 准教授
國分 重隆	東京都新宿区立東戸山小学校 校長
大江 靖雄	千葉大学大学院園芸学研究科 教授
岩田 三代	日本経済新聞社編集局生活情報部 論説委員
木島 俊行	明治乳業株式会社 酪農部 部長
田村 学	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
村上 隆彦	むらかみ牧場(北海道)
吉田 恭寛	吉田牧場 牧場のログハウスちちぶ路(埼玉県)
藤田 毅	地域交流牧場全国連絡会 会長【フジタファーム(新潟県)】
板東 寛之	ホクレン農業協同組合連合会 参事・酪農畜産事業本部長
赤尾 學	東海酪農農業協同組合連合会 代表理事専務
菊川 時彦	四国生乳販売農業協同組合連合会 常務理事

平成21年度酪農教育ファーム専門委員名簿

※順不同・敬称略

氏名	所属・役職等
角屋 重樹	広島大学大学院教育学研究科 教授
大江 靖雄	千葉大学大学院園芸学研究科 教授
國分 重隆	東京都新宿区立東戸山小学校 校長
石井 雅幸	大妻女子大学家政学部児童学科 准教授
吉田 恭寛	吉田牧場 牧場のログハウスちちぶ路(埼玉県)
村上 隆彦	むらかみ牧場(北海道)
清水 ほづみ	清水牧場(愛知県)
吉村 信子	吉村牧場 ミルキーファーム(福岡県)

平成21年度 酪農教育ファーム認証審査委員会 委員名簿

順不同、敬称略

氏名	所属・役職等
西田 敦子	全国退職女性校長会 副会長
林 克郎	千葉県酪農農業協同組合連合会 参与
松下 克己	松下牧場(静岡県)
長谷川 隆	千葉県農業共済組合連合会 家畜部保険課 課長
前田 浩史	社団法人中央酪農会議 事務局長

平成21年度酪農教育ファーム推進委員名簿(地域)

※順不同・敬称略 ★:委員長

【北海道推進委員会】事務局:ホクレン農業協同組合連合会

★ 廣瀬 文彦	リバティヒル広瀬牧場
村上 隆彦	むらかみ牧場
高橋 育男	高橋体験牧場
中河 馨	中河ノブファーム
藤沼 悟	中標津農業高校
久保 隆幸	レークランドファーム久保牧場
小川 文夫	小川牧場
山際 睦子	北海道栄養士会 食育推進委員会委員長
高橋 明子	北海道札幌市立北光小学校 教諭
中山 明	北海道乳業協会 事務局長
秋田 孝夫	北海道牛乳普及協会 事務局長

【東北地域推進委員会】事務局:東北生乳販売農業協同組合連合会

★ 伊藤 房雄	東北大学大学院農学研究科 准教授
坂本 雅則	東海大学山形高等学校 教諭
高宮 晴彦	岩手県葛巻町畜産開発公社 専務理事
佐久間 純一	宮城県南蔵王不忘高原牧場
山川 喜市	山形県有限会社蔵王マウンテンファーム 代表取締役
笠原 新一	財団法人蔵王酪農センター 普及推進部次長
伊藤 強	東北生乳販売農業協同組合連合会 代表理事専務

【関東地域推進委員会】事務局:関東生乳販売農業協同組合連合会

★ 小林 信一	日本大学生物資源科学部 教授
亀田 康好	シンボライズファーム亀田牧場(埼玉県)
関口 健	関口牧場(神奈川県)
須藤 陽子	須藤牧場(千葉県)
吉田 恭寛	吉田牧場(埼玉県)
國分 重隆	東京都新宿区立東戸山小学校 校長
香川 明夫	香川栄養学園女子栄養短大 助教授
中村 順子	東京都北区第三岩淵小学校 教諭
木村 康行	明治乳業(株)東日本酪農事務所関東酪農課 課長
土屋 純夫	静岡県産業部農林業局畜産振興室長
前田 浩史	(社)中央酪農会議 事務局長
本間 るみ子	(株)フェルミエ 社長
持田 守	関東生乳販売農業協同組合連合会 常務理事

【北陸地域推進委員会】事務局:北陸酪農業協同組合連合会

★ 藤田 毅	(有)フジタファーム(新潟県) 代表取締役
稲場 仁	新川育成牧場(富山県) 牧場長
田嶋 敏	田嶋牧場(福井県) 牧場主
山田 一成	新潟県農林水産部畜産課 経営係長
佐藤 栄治	新潟県畜産協会 次長
曾我 由佳里	新潟県教育庁 主事
宮田 青美	学校給食栄養士協議会 会長
吉田 千佳子	新潟大学農学部附属フィールド科学センター 助教
大内 正博	新潟県農協乳業(株) 社長
田辺 和行	新潟県酪連 係長
山本 康雄	全農富山県本部 課長
林 良一	石川酪農協 課長
本田 透	福井県経済連 課長補佐

【東海地域推進委員会】事務局：東海酪農業協同組合連合会

★ 伊藤 立	デイリーパラダイス(愛知県)
村田雄一郎	東海地区乳業協会幹事会社(株)日本ミルクコミュニティー)
赤尾学	東海酪農業協同組合連合会
石黒慶三	愛知県農林水産部畜産課
小林安男	長野県農政部園芸畜産課
林 啓介	岐阜県農政部畜産課
齊藤尚彦	三重県農水商工部農畜産室
西山なつ	三重県栄養教諭・学校栄養職員協議会会長
大井幸男	大井牧場(岐阜県)
渡邊友裕	渡邊牧場(三重県)
清水ほづみ	清水牧場(愛知県)
川島敬一	愛知県酪農農業協同組合
鳥羽建治	全国農業協同組合連合会 長野県本部
桜井精一	岐阜県酪農農業協同組合連合会
河野謹一	三重県酪農農業協同組合連合会

【近畿地域推進委員会】事務局：近畿生乳販売農業協同組合連合会

★ 花房 享一郎	花房牧場(兵庫県)
山田 保高	山田牧場(滋賀県)
中井 忠芳	大阪府民牧場 業務課長
米岡 伸治	神戸市立 六甲山牧場 牧場長
中島 香織	大阪府立農芸高等学校 教諭
飛田 具美	兵庫県教育委員会体育保健課 課長補佐兼食育係長
稲岡 重幸	滋賀県牛乳協会 事務局長
北村 宏	京都府牛乳協会 事務局長
久下 憲一	社団法人 大阪府牛乳協会 事務局長
谷森 修三	兵庫県牛乳協会 専務理事
鷗 雄彦	奈良県牛乳協会 会長
南谷 平八	和歌山県牛乳協会 会長
新井 克夫	近畿農政局 生産経営流通部 畜産課 畜産経済第2係長
加藤 真由子	滋賀県 農政水産部 畜産課 主任技師
島田 達生	京都府 農林水産部 畜産課 主査
田中 幸二	大阪府 環境農林水産部 動物愛護畜産課 主査
多井 梢	兵庫県 農政環境部農林水産局 畜産課 酪農係
森本 義久	奈良県 農林水産部 畜産課 畜産流通係 主査
高橋 康喜	和歌山県 農林水産部 畜産課 副主査
宮尾 和也	全国農業協同組合連合会滋賀県本部畜産部畜産酪農課 調査役
林 勝裕	全国農業協同組合連合会京都府本部畜産部畜産酪農課 係長
山口 寛司	大阪総合畜産農業協同組合連合会総務課 課長
吉本 悦子	兵庫県酪農農業協同組合連合会
前川 貞行	奈良県農業協同組合営農部営農生産資材課 係長
谷口 洋仁	和歌山県農業協同組合連合会米穀畜産部畜産課 主任調査役
城守 隆志	全国農業協同組合連合会西日本酪農事業所生乳共販課
西 智子	全国酪農農業協同組合連合会大阪支所 指導組織課

【中国地域推進委員会】事務局：中国生乳販売農業協同組合連合会

★ 沖 正文	トムミルクファーム(広島県)
伊藤 篤男	伊藤牧場(島根県)
古志野 竹代	スカーレットファーム古志野牧場(島根県)
岩川 孝行	蒜山酪農協育成牧場(岡山県)
安富 正史	安富牧場(岡山県)
宮木 英樹	宮木牧場(岡山県)
小川 香奈	池田牧場(広島県)
岡田 典子	岡田牧場(広島県)
上田 英之	カドーレ上ノ原牧場(広島県)
久保 正彦	クホアグリファーム 久保牧場(広島県)
松本 健介	チチヤス(株)大野牧場(広島県)
山根 温子	山根牧場(広島県)
藤井 朋子	藤井牧場(山口県)
吉岡 永裕	船方総合農場(山口県)
藤井 幸司	山陽小野田市立厚狭小学校 教頭
三輪 美保	島根県農林水産部 畜産振興課
中西 得之	岡山県農林水産部 畜産課
吉上 涉	広島県農水産振興部 畜産課
石井 俊昭	山口県農林水産部 流通企画室
造田 弘美	大山乳業農業協同組合 指導部指導課
熱田 保政	全農島根県本部 畜産部
青木 恭一	島根県牛乳普及協会
宗田 佳久	おかやま酪農業協同組合 経済部販売課
隅屋 寒三	広島県酪農業協同組合
塚水尾 一正	広島県牛乳普及協会 学乳部会
田原 直樹	山口県酪農業協同組合 総務課
清水 誠	(社)山口県畜産振興協会

【四国地域推進委員会】事務局：四国生乳販売農業協同組合連合会

★ 広野 正則	広野牧場(香川県)
野崎 武司	香川大学 教育学部 教授
吉田 雅規	徳島県 農林水産部 畜産課 技師
池田 ゆかり	香川県 農政水産部 畜産課
檜垣 邦昭	愛媛県 農林水産部 畜産課 主任
萩原 一也	高知県 農業振興部 畜産振興課 主幹
板東 照之	板東牧場(徳島県)
藤川 修	藤川牧場(香川県)
三井 恵美代	三井牧場(香川県)
大山 育江	(有)大山牧場(香川県)
横田 佳庸子	横田牧場(香川県)
鹿嶋 利三郎	岡崎牧場(高知県)
香川 富士夫	日本酪農協同(株)香川工場 製造課長
中川 久美子	徳島県酪農業協同組合 総務部 部長
次田 尚兄	香川県農業協同組合 畜産課 課長
兵頭 淳志	愛媛県酪農業協同組合連合会 生産部 課長
山中 公洋	全国農業協同組合連合会 高知県本部 畜産課 調査役

【九州地域推進委員会】事務局：九州生乳販売農業協同組合連合会

★ 尾場瀬 優一	三島村立片泊小中学校 校長
大藪 真裕美	オオヤブディリーファーム(熊本県)
鎮守 喜代美	きいれ牧場(鹿児島県)
中島 構治	ナカシマファーム(佐賀県)
横尾 文三	ヨコオ牧場(佐賀県)
吉永 公紀	大津町立大津南小学校
石田 靖弘	脊振少年自然の家
福田 和久	九州農政局消費生活課